季刊（4月・7月・10月・1月　発行）

Gifu Occupational Therapist Association News

ごったに 91号

2018年10月

事務局：平成医療短期大学 リハビリテーション学科作業療法専攻
〒501-1131 岐阜市黒野180 TEL＆Fax:058-234-6763
E-mail:jimu@gifu-ot.com　http://gifu-ot.com

特集

＜ 新入会員紹介 ＞

目次

・巻頭言（箱づくり法で学ぶ作業遂行特性の視点）
・活動報告（平成30年度学術部研修会（身障領域）報告）
・活動報告（ぎふささえあいフェスタ2018）
・新入会員紹介
・私の職場の強み（久美愛厚生病院）
・突撃！となりの作業療法士（私にとってＯＴとは）
・臨床実習指導者研修について

「箱づくり法で学ぶ　作業遂行特性の視点」

のぞみの丘ホスピタル
大　下　伸　子

精神科領域において作業遂行を客観的に伝える評価法は少ない。精神科の実習で“作業遂行をどのような視点で捉えたらよいのか？”迷った人も多いのではないだろうか？

作業療法で焦点を当てる日常的な作業は、“指示を受けてある課題に取り組み、結果を振り返る”という流れである。箱づくり法は、箱を作るという課題でこの流れを観察測定する。結果は4種類のグラフと観察記録を統合した報告書で示される。

私は箱づくり法に出会い、作業遂行の視点が質的に豊かになった。今日はこの欄を借りて“箱を作る作業において何を見ているのか？”その例を簡略して紹介する。

＜愛想がよく印象が良いと、何でも出来るようにみえる：印象と実際の能力の差＞
挨拶や相槌や感情表現が上手であると、作業も出来ると映りがち。実際の作業遂行や言語表現内容を観察すると、そうでない場合もある。
＜パッと思いついたらまず行動、見通しを立てず行動して失敗する：作業の着手方法＞
指示された課題に対して大まかなイメージがわいた時点で直感的に行動に移す。踏みとどまる力考える力が弱い。
＜なかなか次の工程に移れない：作業の切り替え・休息の取り方＞
順調に作業に取り組んでいるのに、眺めたり手をかけたり考えたり、なかなか次の工程に移る事ができない。自分のこだわりや不安など何らかの理由で場面を切り替えられない。
＜困っている事に気づけず、助けを求められない：困難の自覚と対処方法＞
明らかに困っているようだが、一人悪戦苦闘。他者の援助で何とか遂行するも、本人は困っていたという自覚も助けてもらったという自覚も薄い。
＜自分を素直に受け止められない：結果（自分自身）の受け止め方＞
作品を見もせず触りもせず、作品について淡々と言葉少なに語る。ありのままの自分を受け止める事が何らかの要因で妨げられている。

このように把握した作業遂行特性は、具体的であるがゆえに目標や支援方法を導きやすいという実感がある。紙面都合上語りきれないが興味を抱いた方は、ホームページや当院での勉強会などで一度触れてみてほしい。

＊箱づくり法
統合的な作業遂行能力を把握する作業面接。開発者は冨岡詔子氏（信州大学名誉教授）、箱づくり法研究会事務局は長野保健医療大学。
ホームページ及びフェイスブック　箱づくり法研究会　で検索

平成 30 年度学術部研修会（身体障害領域）報告

学術部長：東　灘　エ　ミ（養南病院）
身体障害領域担当：中　島　啓一郎（西美濃厚生病院）

平成30年7月29日（日）、西美濃厚生病院 健診センター３階　講義室にて学術部研修会（身体障害領域）が行われました。参加者は23名でした。以下に報告をします。

今回、サンビレッジ国際医療福祉専門学校 作業療法学科主任 廣瀬武先生をお迎えし、「肩関節の機能解剖と運動学」といったテーマで御講義いただきました。「進化の中で肩関節は２回変化し、その結果、投げるためにデザインされた構造を獲得した」という内容から始まった御講義では、複雑な肩関節構造を有するに至った理由を知ることができ、非常に興味深い内容でした。また肩関節の基本的な解剖学・運動学を復習しながら臨床場面ですぐに使える治療手技もご教授していただきとても参考になりました。

作業療法士として患者様の肩関節治療を行う機会は非常に多いものの、運動自由度が高い反面、不安定性が出現しやすい肩関節は病態や個人の特異性により症状が左右されやすいため治療に難渋するセラピストもいるかと思います。そういった時に今一度解剖学・運動学を整理する機会を作ると良いのではないでしょうか。

以上となりますが今回研修会にて御講義していただいた廣瀬武先生および研修会参加者の皆様、ありがとうございました。

ぎふ　ささえあいフェスタ

地方局(岐阜圏域担当)：藤　井　稚　也（岐阜保健短期大学）

開催日：2018年9月21ー22日
場　所：みんなの森　ぎふメディアコスモス
（一社）岐阜県作業療法士会、認知症ケア専門士会合同企画
講　演：『歳をとっても・・・「気持ちよく出す＝排泄」をささえるコンチネンスケア』
講　師：日本コンチネンス協会東海支部　コンチネンスアドバイザー（排泄ケア専門）
（有）きちっと　　佐藤　文恵　氏

コンチネンス（Continence）とは排尿や排便が正常の状態を表す英語であり、失禁（Incontinence）の肯定形である。また、気持ちの良い排泄の増進や排泄障害の予防等を包括し、身体的・心理的・社会的に障害のない状態を目指すのがコンチネンス医学、コンチネンスケアの核心であり、昨今、医療・介護専門職に共通した視点と知識が求められはじめている。排泄は介護量の程度や社会復帰の可能性に関与し、対象者や家族からの自立と満足に向けたニーズが高いことから、対象者の自立支援に携わる作業療法士にとっても重要な機能である。しかし、排泄はしばしばトイレ動作に置き換えられ、またその主眼もFIMの得点変化に代表される自立度（反語：失敗の有無と程度）と介護量との相互的関連性のみに置かれてしまうことがある。

排泄障害には介入により機能改善が期待される場合や手段を変えることで自立する場合がある。また、対象者はDisease（疾病）の回復だけでなく、主観的体験のIllness（やまい）からの緩解と社会化された概念であるSickness（病的状態）からの復権を求めているのではなかろうか。

本講演は、岐阜県における「コンチネンス×リハビリ×多職種協働」の幕開けとなり、我々、作業療法士にとって排泄に関する支援の在り方を再考する意味で大きな価値を持つであろう。

私の職場の強み

第９回

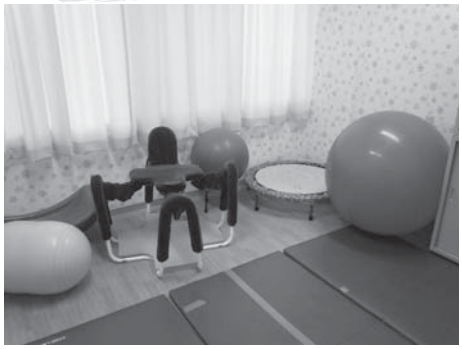
JA 岐阜厚生連

久美愛厚生病院

飛騨地方初となる「緩和ケアセンター」の開設に続き、平成 27 年、治療・療養から生活へスムーズに移行するための機能構築を目指した「地域包括ケア病棟」を開設しました。

院内作業活動

作業活動を通して患者さんと関わり、患者さんの自主性を大切にしています。季節に合わせた作品を患者さんと一緒に作っています。



小児リハビリ

発達障害のお子さんを中心に自閉症スペクトラム症やADHD、運動発達遅滞などのお子様に対して、外来で訓練を行っています。医師、療育機関との連携も重視しており、月1回のカンファレンスを通して情報共有、今後の方向性を決めています。

スタッフ間の連携

院内スタッフ４名、訪問リハビリに専従スタッフが１名従事しています。院内から退院された患者さんが、訪問リハビリを利用されることも多く、スタッフ間での情報共有を計るために月に２回のミーティングを行っています。訪問リハビリにスタッフが従事していることで、「在宅での利用者さんの様子。」、「在宅にて問題になっていること。」、「利用しているサービス。」などが明確となってきます。院内スタッフが、病院での訓練では気がつきにくい点に気がつくことができる貴重な機会となっています。

新人の中齋です！

第11回 突撃となりの作業療法士

朝日大学病院
坂田　崇好　先生からのご紹介

「私にとってＯＴとは」

株式会社ALTHEA　テラスあるてあ
村　田　美　貴

職歴：
平成25年　各務原リハビリテーション病院　入職
平成28年　株式会社ALTHEA　入職

略歴：
平成25年　平成医療専門学院　作業療法学科　卒業
平成28年　AMPS認定評価者　取得

デイサービスで働き、今年で４年目となりました。働きはじめた当初は、「この人が在宅で生活？」と驚く事も多々ありました。しかし、住み慣れた地域で安心・安全に暮らす背景には、多くの職種やサービスが関わっていることを知りました。ＤＳの役割もその一部を担っていると考えます。私が働くＤＳでは、１日のうちの7時間を施設内で過ごされています。ＯＴとして、この7時間をどのように過ごして頂くかを常に考えています。同じ「作業」であっても、クライエントによってやり方や手順、目的が違います。１人１人の「意味ある作業」をナラティブから聞き出し、ＯＴが人的環境や物理的環境の調整を行う事が大切だと考えます。協業する事で達成時の喜びは、半端ないです！

地域で働くＯＴとして「生活をみる」という視点を忘れず、毎日笑顔で元気にクライエントと向き合い、寄り添っていきたいと思います。

臨床実習指導者研修会の受講資格・受講免除・研修日程について

先日届いた協会広報誌でご案内があった通り、2020年４月以降以降に養成校へ入学する学生を臨床実習指導するには、臨床実習指導者研修会を受講している必要があります。

この研修には初級・中級・上級の３つがあり、全てを受講する必要がありますが、受講免除となる場合もあります。それぞれについて説明します（右記・枠内）ので、ご一読の上、受講願います。

なお、来年度以降、この研修会は協会ではなく士会単位で開催されます。それに伴い、その講師を士会単位で確保する必要があり、今年度中に開催される中級・上級研修会へ岐阜県士会から５名の方に士会推薦で参加いただくことになりました。その方に来年度以降の講師をお願いすることになります。士会推薦の方は、以下の５名です。

・尾石泰江（土岐市立総合病院）
・花井弘和（岐阜市民病院精神科デイケア）
・山河陽一（希望が丘こども医療福祉センター）
・林　節也（岩砂病院・岩砂マタニティ）
・宮園康嗣（あじろ診療所しらゆり療育センター）

＜初級＞
◆現職者共通研修の「ＯＴにおける協業・後輩育成」と「職業倫理」を受講すれば修了。
◆次の方は初級研修の受講を免除。
・上記２つの研修（現職者共通研修）を受講済みの方
・協会生涯教育システム基礎研修修了者
・PT・OT・ST養成施設等教員研修会受講者

＜中級・上級＞
◆下記の①と②をともに満たす方が受講可能。
①免許取得後４年以上の協会員および都道府県作業療法士会正会員
②初期研修修了者
◆次の方は中級・上級研修の受講を免除。
・認定作業療法士の方で 2018 年 3 月までに臨床実習指導者研修会の免除申請をした方（免除申請されていない場合は、中級・上級研修の受講が必要）
・PT・OT・ST養成施設等教員研修会受講者
◆中級・上級研修会の開催日程については、以下の協会ホームページをご覧ください。
http://www.jaot.or.jp/post_education/kenshuuunei.html

ご不明な点がありましたら、以下の問い合わせメールフォームからお問い合わせください。
http://gifu-ot.com/form.php

【会員数・会員所属施設数】
平成 30 年 9 月 29 日現在
岐阜県作業療法士会会員数 572 名
所属施設数　148 施設

理事会議事録データの損失について
（報告とお詫び）

理事会議事録は県士会ホームページへ掲載しているところですが、このたび、総務部パソコンの故障により、そのデータが損失しました。

そのため、平成29年度第4回理事会、ならびに平成30年度第1回の理事会議事録を掲載することが出来なくなりました。

これまでの総務部パソコンの管理が不十分であったことを反省するとともに、会員の皆様にはご迷惑をお掛けすることをお詫び申し上げます。

今後はパソコンが故障してもデータが損失しないようなデータ管理を行います。

なお、総務部のパソコンには会員個人情報データは保存されていませんので、個人情報が漏えいする恐れはありません。また、故障したパソコンは正規の方法で破棄（リサイクル業者へ引き渡し）致します。

県士会事務局　山河陽一

機関誌編集部

機関誌「岐阜作業療法」論文投稿のお願い

日頃より機関誌編集部の活動にご協力頂きまして、厚く御礼申し上げます。

この度、機関誌「岐阜作業療法」発刊に向けて準備を進めておりますが、現在、論文の投稿が少ない状況です。

岐阜県作業療法学会だけでなく、今年開催されました日本作業療法学会等、他学会で発表された方も、論文として岐阜作業療法に投稿してみてはいかがでしょうか？

「論文を書くのは難しそうだ」と思っている方も多いと思います。査読等の手続きを通して、掲載までサポートしますのでご検討頂けると幸いです。よろしくお願い致します。

機関誌編集部　石川真太郎
s-ishikawa@wakokai.or.jp

生涯教育部

各研修会の受講証明書をお持ちの方は、下記住所へ郵送を。内容を確認出来次第、生涯教育ポイントシールを郵送にて配布します。

平成30年度（平成30年4月～平成31年3月）開催分の受講証明書は、平成31年3月中旬までに郵送をお願いします。

〒502-0812　岐阜市八代1-7-1
岩砂病院・岩砂マタニティ
リハビリテーション科　作業療法室
林　節也　宛

＊往信用封筒には「受講証明書在中」と朱書き
＊受講証明書と返信用封筒（82円切手貼付）を同封

広報部

岐阜県作業療法士会ニュース
「ごったに」編集
岐阜県作業療法士会（広報部・会員向け）

岐阜清流病院
リハビリテーション療法課　作業療法室
〒501-1151　岐阜市川部 3 丁目 25 番地
TEL. 058-239-8111
FAX. 058-239-8216

山田病院
リハビリテーション科　作業療法部門
〒501-0104　岐阜市寺田 7 丁目 110 番地
TEL. 058-254-1411
FAX. 058-254-1413

【編集後記】

気温が下がりつつあります、体調を維持することが難しくもなりますね。子供の風邪は親に移りやすいのかなと思う、ここ最近です。みなさま体調には十分に気を付けてお過ごしください。